

ODA 大綱はいかにあるべきか
- DC 開発フォーラムからの貢献 -

2003 年 4 月 9 日
紀谷昌彦

1. 日本の政策において「ODA 大綱」をどのように位置づけるか

(1) 政策体系の中で、ODA は政策の手段 「ODA 政策」とは何か？

(2) 政策体系

- ・日本の「国のかたち」 「国家戦略」
- ・国内政策 / 対外政策 (相互に重なり合う)
- ・外交政策、開発政策、国際金融政策、文化政策等 (相互に重なり合う)

(例) 国家戦略 : 「日本のフロンティアは日本の中にある」

(「21 世紀日本の戦略」懇談会・2000 年 1 月)

外交戦略 : 「21 世紀日本外交の基本戦略」

(対外関係タスクフォース・2002 年 11 月)

(3) ODA の上位概念 : 「開発」と「外交」の関係

- ・外交の定義にもよるが、「相互に下位概念でも上位概念でもない概念」
- ・外交はすべての政策分野に関係するが、各政策分野の自律性を活かしつつ、比較的高次の外交政策の観点から政策形成に関与。(「外交帝国主義」でない。マイクロマネジメントをしない。) ODA についても、「開発」の自律性を活かしつつ、「外交」戦略の観点から政策形成に関与

(4) 「ODA 大綱」とは、ODA (政府開発援助) で切り分けた説明枠組み

対国民、対外国で、日本のスタンスを説明・発信することが目的では？

(operational tool というより communication tool, reference point)

2. 「ODA 大綱」において普遍的価値と国益をどのように位置づけるべきか

(1) 普遍的価値はどの程度重要か

- ・ 開発問題は 21 世紀の国際社会の最大の問題、国際社会の「社会問題」。
- ・ 中長期的な「啓発された利益」の観点から極めて重要。

(2) 普遍的価値と短期的な「個別利益」の関係

- ・ マトリックスが描ける。(英国は「国益」を強調しないとの指摘あり。)
 - A 短期的な「個別利益」を考えるが、普遍的価値のみ対外的に強調
 - B 短期的な「個別利益」を考えずに、普遍的価値のみ対外的に強調
 - C 短期的な「個別利益」を考え、短期的な「個別利益」も対外的に強調
- ・ 普遍的価値を真剣に追求しないと、短期的な「個別利益」の確保もままならない。(国際的な認知と支持が得られない。)
- ・ 結局、レトリックをどうするかという側面もある。
- ・ ODA 大綱を作った後、普遍的価値と短期的な「個別利益」にどのように配慮するか。
- ・ (政治家、企業、メディアをはじめとする) 国民との対話とフィードバックが課題。

3. 「基本理念」「原則」として何を示すか

(1) 日本の「国のかたち」を示す根幹

- ・ 日本として、世界はいかにあるべきと考えるか
- ・ 日本として、開発はいかにして達成されると考えるか

(3) 日本の経験・叡智の反映

- ・ 自助努力(長く一緒につきあいながら総合的に考える)
- ・ 軍事支出の抑制、軍事的用途への使用の回避(平和国家)
- ・ 環境と開発の両立(環境汚染の経験)
- ・ ガバナンス・市場経済(位置づけ)

4 . 重点地域をどうするか

(1) 総論

- ・ 外交政策と開発政策の交差点。それぞれの観点から政策を詰め、相互に調整した上で、どのように整理・説明するかというアプローチが必要では？（最初からレトリックを考えても議論がかみ合わないのでは？）

(2) アジア

- ・ まず身の回りから成果を上げる一地域の安定と繁栄の普遍的意義を説明。
- ・ アジアの定義を明確化する - 南アジアの扱い。

(3) アフリカ

- ・ 国際社会の「社会問題」に日本が今後とも真剣に取り組むかの試金石。

5 . 重点分野をどうするか

(1) 総論

- ・ 途上国にニーズがある分野と日本に強みがある分野の双方を睨んで示す。
- ・ 特に、国際的に日本が主張し自ら実行する分野を強調する。

(2) 平和と開発の関連（平和構築、人間の安全保障等）

- ・ 今後の理論構築と実践が特に要請

6 . ミレニアム開発目標(MDGs)をどのように位置づけるのか

(1) 開発問題への取り組みにおける MDGs の位置づけ如何

- ・ DAC 新開発戦略からの経緯を踏まえ、日本としていかなる意味で支持できるか検討する。
- ・ 日本として「担ぐ」に値する概念。ただし問題点はなにか。

(2) MDGs の進化に積極的に関与

- ・ MDGs について知見を示すことは、グローバルな開発問題への取り組みをリードする上で極めて重要。（世界と「同じ言葉話す」必要がある。）

7. 政策立案・実施体制とその運用をどうするか

(1) ODA 大綱にとどまらないマネジメントの問題

(2) いくつかの具体的な視点

- ・ 組織と場所を超えてのナレッジマネジメントが重要。
- ・ 「制度」と「人」は車の両輪。「仏作って魂入れず」にならないように。

(以上)